牛 肉 情 勢

10月11日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 8月の成牛と畜頭数は、85.4千頭と前年並み(前年比100.1%)となった。 内訳を見ると、和牛:37.7千頭(前年比103.5%)、交雑牛:20.2千頭(同103.0%)、乳牛去勢:11.2千頭(同93.9%)となった。 ○ 9月の成牛と畜頭数は、速報値(9月30日まで集計)で89.8千頭と前年並み(前年比100.3%)となった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(9月27日公表)によると、9月の出荷頭数は、和牛は減少するが、交雑種および乳用種での増加が見込まれることから、 前年同月並みと予測し、10月は、全品種での出荷頭数の増加が見込まれることから前年同月を上回ると予測する。 (9月90.0千頭(前年比99.9%)、10月95.6千頭(同103.7%))。 そのため、3か月平均(8月～10月)でも、出荷頭数90.5千頭(前年比101.3%)、生産量28.5千㌧(同102.3%)と前年を上回る予測となっている。
	2.輸入	○ 8月の輸入通関実績は、全体で45.7千㌧と前年を下回った(前年比85.3%、前月比118.0%)。 内訳ではチルド:17.3千トン(前年比88.5%、前月比89.4%)、フローズン:28.3千㌧(前年比83.5%、前月比146.7%)となった。 輸入相手国別では、チルド、フローズンともに豪州が増加したが、その他の国は減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　　:米国8.1千㌧(前年比80.1%)、豪州7.9千㌧(同118.1%)、カナダ0.8千㌧(同80.9%)、ニュージーランド0.3千㌧(同49.8%)、メキシコ0.2千㌧(同19.7%) フローズン :豪州12.4千㌧(前年比107.4%)、米国9.7千㌧(同79.1%)、カナダ2.4千㌧(同56.2%)、メキシコ1.8千㌧(同98.6%)、ニュージーランド1.5千㌧(同57.8%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドの輸入量は、9月は、国内需要の低迷や米国産の現地価格の高騰等により減少し、10月は、豪州の現地生産量の増加により輸入量が増加するため上回ると見込んでいる。 フローズンは、国内の輸入品在庫量が多い事や主要国を含む全ての国からの輸入量が少ない事から、9月、10月ともに前年を下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和5年9月　合計:38.0千㌧(前年比73.2%)、チルド:16.5千㌧(同97.2%)、フローズン:21.5千㌧(同61.6%) 令和5年10月　合計:37.7千㌧(前年比77.6%)、チルド:16.1千㌧(同110.8%)、フローズン:21.6千㌧(同63.4%) 直近3か月(8月～10月)平均 合計:40.4千㌧(前年比78.6%)、チルド:16.8千㌧(同98.7%)、フローズン:23.6千㌧(同68.7%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 8月概況	○ 総務省発表の8月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は516g(前年比101.6%)、支出金額が1,800円(同91.9%)となり、 購入量は前年並みだったが、支出金額は前年を下回った。(※2019年度同月比:購入量 92.5%、金額 97.1%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の8月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,228.4億円(前年比102.7%、既存店ベース101.7%)と前年を上回った。 国産牛価格が落ち着き、お盆時期の焼肉需要、週末の高単価商品は好調だったが、その他の時期は苦戦した店舗が多い。豚肉は、小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に好調。 国産豚の動きは良い。鶏肉はむね肉を中心に好調。加工肉は値上げの影響で不振、ギフト関連も低迷した。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。
	3.外食 8月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した8月販売概況によると、畜産品の売上は897.3億円(店舗調整後で前年比101.1%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは良かった。 ○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査8月度結果報告によると、コロナ5類移行後、初めての夏休みとなり、旅行や帰省等で人流回復がさらに進んだ。お盆時期後半の台風の影響はあったが、 猛暑で季節メニューが好調だった。インバウンド需要は依然堅調。全体売上は前年比116.6%、2019年比では105.2%と好調だが、店舗の人手不足は常態化しており、特にピーク時間帯の不足感は大きい。 業態別; ①ファーストフード　前年比111.6%、2019年度比116.8%　深夜営業を再開する店舗あり、帰省需要の持ち帰りが地方で増え、季節の新商品や麺業態のビール販売が好調 ②ファミリーレストラン　前年比121.1%、2019年度比 96.4%　お盆時期を中心に夏休みの家族連れ需要が堅調。焼肉店は夏休みで大学生等の若年層の集客があり好調。 ③ディナーレストラン　前年比129.9%、2019年度比 93.6%　お盆の個人客の宴会が堅調であった。またインバウンド需要は処理水問題で一部にためらいも見られたが引き続き好調。 ④居酒屋　前年比146.2%、2019年度比 62.9%　ビジネス街立地の店舗は猛暑で昼間の集客が鈍り、ターミナル駅や商業施設の店舗は帰省客等の需要が旺盛だった。
	4.輸出	○ 8月の輸出実績は639.0㌧(前年比97.1%)と前年を下回った。台湾向け(133.0㌧、前年比96.2%)は前年を下回り、香港向け(124.2㌧、前年比139.6%)は前年を上回った。 また、カンボジア向け(67.5㌧、前年比63.1%)は前月に引き続き前年を下回っており不安定な状況となっている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、8月末の推定期末在庫量は160.4千㌧(前年比100.3%、前月比100.8%)と前年並み。 内訳は、輸入品;148.0千㌧(前年比101.0%、前月比101.0%)、国産品;12.3千㌧(同93.2%、同98.4%)となり、輸入品は前年実績を上回ったが、国産品は下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、9月末;157.3千㌧(同94.9%)、10月末;151.2千㌧(同91.7%)と、9月、10月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年9月 速報値	○ 9月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;9月30日時点)は、和牛去勢A5が2,520円(前年比98.4%)、A4が2,079円(同91.1%)、交雑去勢B3が1,474円(同98.6%)、 乳牛去勢B2が783円(同81.4%)であった。 ○ 9月は、消費者の生活防衛意識が高いことに加え、東日本・西日本で記録的な高温になったことから、例年よりもスライス需要は低調となった。 また、月前半は盆休み期間用の手当玉の在庫消化が重なったことから、弱含みとなったものの、後半は気温の低下とともにスライス需要が徐々に回復し強含みとなった。
	2.R5年10月 予測	○ 10月は、日中の気温が徐々に過ごしやすくなり、鍋物需要などの需要増に期待が出来るものの、依然として消費者の生活防衛意識は高く、単価の高い牛肉の荷動きは弱いと思われる。 一方で、各地で枝肉共励会が開催される月となっていることから、和牛・交雑牛ともに相場は前年を下回るが、前月からは横ばいから強含みでの推移が見込まれる。 乳牛去勢は、ホテル需要など一部で引合いがあるものの、頭数が限定的であることから横ばいでの推移が見込まれる。
部分肉相場	1.R5年 10月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】 ・和牛カタセット(スネなし) : 2,900円　・ホルスカタセット(同) : 1,800円　・交雑牛カタセット(同) : 2,100円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 5,800円　・ホルスロースセット(同): 3,000円　・交雑牛ロースセット(同) : 4,200円 ・和牛モモセット(スネなし) : 3,700円　・ホルスモモセット(同) : 1,900円　・交雑牛モモセット(同) : 2,300円 ・和牛トモバラ : 1,900円　・ホルストモバラ : 1,050円　・交雑牛トモバラ : 1,250円

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計		交雑牛計		乳牛去勢計		成牛計	
	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年　5月	38.3	102.7	20.5	104.3	11.1	92.4	84.7	101.2
R5年　6月	40.6	102.9	21.2	107.4	11.2	92.4	88.4	101.6
R5年　7月	45.9	102.3	23.0	107.9	11.2	93.4	95.3	101.3
R5年　8月	37.7	103.5	20.2	103.0	11.2	93.9	85.4	100.1

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千㌧, %)

暦年	輸入数量合計		チルド数量		フローズン数量	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年　4月	67.9	110.3	21.1	102.9	46.8	114.1
R5年　5月	46.4	101.4	16.1	78.5	30.3	120.0
R5年　6月	43.7	75.7	16.5	72.3	27.2	77.9
R5年　7月	38.7	74.4	19.4	99.2	19.3	59.5
R5年　8月	45.7	85.3	17.3	88.5	28.3	83.5

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り				チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
	数量	前年比	金額	前年比				
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年　5月	518	99.0	1,833	96.3	298.9	264.3	563.1	110.8
R5年　6月	479	103.0	1,587	96.6	345.7	275.3	621.0	122.0
R5年　7月	475	94.2	1,643	91.8	353.0	278.1	631.1	97.7
R5年　8月	516	101.6	1,800	91.9	313.3	325.7	639.0	97.1

○輸出量の推移(単位:㌧、%)

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5		和牛去勢A-4		交雑牛去勢B-3		乳牛去勢B-2	
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年5月	2,559	99.0	2,235	94.9	1,505	93.9	943	85.0
R5年6月	2,564	98.4	2,176	91.4	1,452	96.0	913	84.2
R5年7月	2,517	96.4	2,134	89.8	1,481	95.9	906	87.4
R5年8月	2,421	98.8	2,039	93.6	1,432	95.9	773	88.3
R5年9速報値	2,520	98.4	2,079	91.1	1,474	98.6	783	81.4

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)

◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】

	8月実績		9月速報値		10月予測		11月予測	
・和牛去勢 「A-5」:	2,421円	(98.8%)	2,520円	(98.4%)	2,500円	(94.4%)	2,550円	(96.3%)
・和牛去勢 「A-4」:	2,039円	(93.6%)	2,079円	(91.1%)	2,100円	(89.7%)	2,150円	(90.5%)
・交雑去勢 「B-3」:	1,432円	(95.9%)	1,474円	(98.6%)	1,450円	(95.3%)	1,500円	(99.6%)
・乳牛去勢 「B-2」:	773円	(88.3%)	783円	(81.4%)	800円	(76.8%)	800円	(71.7%)